

指定通院医療機関 治療評価シート(3ヶ月毎)

患者番号( ) シート番号( )

作成日

本人氏名				
<b>3ヶ月間の特記すべき状態像、および、提供した多職種チームによる介入、および、その効果と問題点</b>				
介入の内容: 医療機関(訪問看護・指導も含む)、保護観察所、地域などに分けて記載				
1) 医療機関 通院頻度と受療態度、服薬状況、訪問看護・指導、デイケア参加状況などを記す				効果と問題点
2) 保護観察所				効果と問題点
3) 地域(保健所、社会復帰施設など)				効果と問題点
総合的な生活機能(GAF)		点	生活機能を全体的にとらえて0~100点で評価する。	
生活機能	領域		評価点	説明(生活機能上の問題と治療の焦点を明確にする)
	セルフケア	身体快適性の確保		
		食事や体調の管理		
		健康の維持		
	社会的な適性	調理		
		調理以外の家事		
		敬意と思いやり		
		感謝		
	対人関係	寛容さ		
		批判		
合図				
身体的接触				
対人関係の形成				
日課の遂行	対人関係の終結			
	対人関係における行動の制限			
	社会的ルールに従った対人関係			
ストレスとその他の心理的要求への対処	社会的距離の維持			
	日課の管理			
	日課の達成			
経済生活	自分の活動レベルの管理			
	責任への対処			
	ストレスへの対処			
	危機への対処			
	基本的な経済的取引			
	複雑な経済的取引			
	経済的自給			
現在の生活場面の実行状況を下記の得点により評価する。				
評価点: 0: 完全にできる(障害は0~4%、自立している) 4: まったくできない(障害は96~100%、常に介助が必要)				
1: 概ねできる(障害は5~24%、見まもりを要する程度) 8: 詳細不明				
2: 多少はできる(障害は25~49%、時に指示・介助・介入を要する) 9: 非該当				
3: ほとんどできない(障害は50~95%、指示・介助・介入を要することが多い)				
機能に影響する環境要因	領域		評価点	説明(介入の要点や手がかりを明確にする)
	生產品と用具	処方薬、自家用車、家、資産など		
	自然環境・地域環境	通院の便、地域の風紀など		
	支援と関係(量的な側面)	家族・知人・医療福祉関係者、法律関係者などの人的支援の量的な評価		
	態度(感情や質的な側面)	家族・知人の態度、治療者の逆転移、地域の感情などの人的環境の質的な評価		
	サービス・制度	医療福祉制度の利用状況など		
環境因子が促進的、阻害的に働いているか、その具体的な内容を記す。介入の方針を立てる資料とする。				
評価点: 0:「促進的」 1:「どちらかという促進的」 2:「どちらでもない」 3:「どちらかという阻害的」 4:「阻害的」の5段階。				
現在の通院治療期における課題と援助方針	課題: 現在の通院治療期における課題について具体的にまとめる。			
	援助方針: 上記の課題を解決するための方針を記載する。			
通院処遇全体を通じた援助の方針	通院処遇終了を目標として具体的に記す。			
会議参加者	(職種: )	(職種: )	(職種: )	
	(職種: )	(職種: )	(職種: )	
	(職種: )	(職種: )	(職種: )	
	(職種: )	(職種: )	(職種: )	
シート作成責任者	(職種: )		会議開催年月日	
			シート作成年月日	